

ミカドONLINE

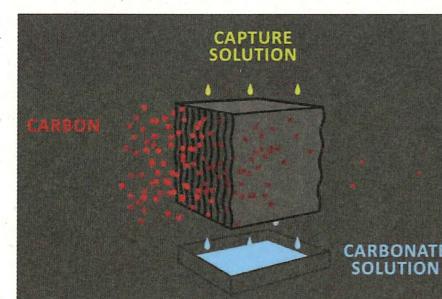
Vol.75
2019
Spring

驚異のエネマネ新技術① ~大気中の二酸化炭素をガソリンに変えてしまおう!~

二酸化炭素の排出をできるだけ抑えることが世界の大きな緊急課題となっていますが、今回ご紹介するのは「元を断つ」のではなく、大気中から二酸化炭素を取り出そうという発想です。

空気中の二酸化炭素を低成本で吸収

昨年(2018年)カナダのカーボン・エンジニアリングという会社が空気中の二酸化炭素を低成本で吸収する新技術を発表しました。空気から二酸化炭素を取り出す技術はすでに確立していますが、従来の方法では1トンの二酸化炭素を得るのに600ドルかかっていました。それを1/6の100ドルまで下げる技術開発に成功したそうです。今まで取り出す量が増えれば増えるほど大きく赤字がかさむため、二酸化炭素の削減方法としては全く現実的ではありませんでしたが、100ドルを切る可能性が示唆されたことで、実用化も視野に入って来ました。



(カーボン・エンジニアリング社のYouTube動画より)

同社の技術は、送風機によって工夫された冷却塔に空気が運ばれ、二酸化炭素と反応する液体に接触します。その後いくつかの工程を経て、より純度の高い二酸化炭素が抽出され、二酸化炭素と反応する液体は空気接触器に再び戻され再利用されるというものです。しかし、ここで取り出した二酸化炭素をどうするか?という問題が発生します。要するに使い道の部分です。お金を払ってでも二酸化炭素が欲しいという人がいれば別ですが、世界中が削減目標にしている二酸化炭素を買いたいという人はさすがにいないようです。

二酸化炭素でガソリンをつくろう!

そこでカーボン・エンジニアリング社は取り出した二酸化炭素でガソリンをつくってしまおう!という驚きのアイデアを生み出しました。そもそもガソリンや



(カーボン・エンジニアリング社のYouTube動画より)



ブラジル生まれでイタリア商事? ホットサンド焼き器「バウル」の謎

皆さんはホットサンドをご存知ですか? 2015年の「マツコの知らない世界」で取り上げられたことがきっかけで再び人気が復活し、テレビを見て何十年も家で眠っていた古いホットサンドメーカーを取り出した人も相当いらっしゃったようです。

さて、下の写真を見てみると、ホットサンドメーカーの表面にBAWLOO(バウル)って書いてありますよね。BAWLOO(バウル)はこのホットサンドメーカー(食パン挟み焼き器)の商品名なのですが、

1970年代に大ヒットしたこと、今ではホットサンドメーカーの代名詞にもなっています。

バウルは元々、この商品を製造している会社(バウル株式会社)の名前でした。この社名は日本のホットサンドのヒントになっ



(Twitter投稿より)

た、ブラジル風ホットサンドの発祥の地であるサンパウロ州のバウルに由来します。つまりブラジルの地名だったのです。けれど、これを現在販売しているのは、イタリアの家庭用品や食材、厨房機器などを輸入販売するイタリア商事という会社です。

実は残念なことにバウル社は新規事業の不振から倒産。しかしバウル社のホットサンドメーカーは従来から製造を担当していた田巻金属(新潟県燕市)がそのまま生産を続け、販売は別会社に引き継がれることになりました。

それが、バウル社の社長さんと親しく、共にブラジルへの視察旅行などにも行った間柄のイタリア商事さんだったのです。

食パンに様々な具を挟んでを焼くホットサンドを私が初めて知ったのは、昭和の時代に仙台の国分町にあったカリーナという小さなコーヒーショップでした。カリーナは今では、飲食事業8店舗・花卉事業1店舗・ケータリング事業・弁当事業などを運営する、地元で著名な事業者に成長しました。

ビジネスの世界は浮き沈みがつきものですが、それでも美味しいものや、美味しいものをつくれるツールは未永く残って欲しいと願っています。

季節の雑学

表伸也上席コンサルタントが再エネ省エネ推進研修会で講義

昨年11月29日(金)に福島県郡山市のビッグパレットふくしまにて開催された、「第2回再エネ省エネ推進建築設備技術者研修会」にて当社の表伸也(おもて しんや)取締役環境・エネルギー部長(兼上席コンサルタント)が講師として登壇しました。

35分という短い時間でしたが、太陽光発電設備の種類や使用パターンについて解説。特に蓄電池を用いた夜間使用やピークカット等について詳しく説明し、当社取扱商品、サービスのPRも加えて行いました。当社の表(おもて)は、専門資格を複数取得しているエネルギー・マネジメントのプロフェッショナルです。

会場では多くの方達に熱心に耳を傾けていただきました。ご来場の皆様、どうもありがとうございます。



ホヤの居酒屋「まぼ屋」

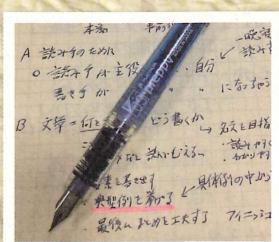
私のお気に入りはホヤの居酒屋「まぼ屋」です。仙台駅前のアエル向かいの菊水ビル3階です。

漁師さんとつながっているらしく、初めて食べた「子持ちホヤ」も美味しかったですし、ホヤのセリ鍋、ホヤのカツレツなどもあり、ホヤ好きにはたまらないお店ですね。



プラチナ万年筆のプレピー 沢田元一郎(当社会長)

とにかく字が下手なんです。誰にも読まれない自信があります。そんな時、文房具コーナーで出会ったのがこのプレピー。書味もなめらかな上にデザインも気取ってなくて気軽に使えます。私と同じように自分に自信があるても字に自信が無い方にはオススメですよ。





事業継続の課題を解決!!

明日を約束する バックアップ用BCPとは② —BCPの組み立て方—

ミカド電装商事株式会社 代表取締役 沢田 秀二

前回は、私たちが経験した東日本大震災発災初期から営業再開までの当社の行動をお伝えさせていただきました。今回は、具体的なBCPの組み立て方についてお伝えさせていただきます。

まず、組み立て方の前に災害発生時に企業が果たすべき役割を書かせていただきます。ここを押さえることによつて各事業所様の考え方、思いが反映されたBCPに出来上がるのではと思ひます。災害復旧でよく使われる言葉として、自分の身は自分で守る「自助」、地域や小集団でお互いに助け合う「共助」、自治体や国が公的に手を差し伸べる「公助」があるとされていますが、最近ではこれに加えて「共助」と「公助」の間に立つ「産助」という企業が出来る援助を表す言葉が見られるようになりました。

今後は事業の継続だけではなく、地域貢献、地域との共生にも力点を置いた「産助」といった考え方から地域を支える行動が求められるでしょう。

実際に東日本大震災の場合にも、発災翌日から建設業や土木業の企業が自発的に率先して自社の設備・機械を使用して瓦礫処理や緊急路・物流路の確保に懸命になつた事や大手の工場では地域住民に避難場所・炊き出しの提供をしていました。これは記憶に新しいところです。これが、現在求められている企業の果たすべき役割なのです。

前置きがだらだらと長くなつてしまい申し訳ありません。これより本文にかかります。

(1) 事業継続マネジメント(BCM)の方針策定

自分達がどうありたいか?自分たちがどうしなくてはならないか?について、経営方針や利害関係者からの要求・要請を整理して事業継続計画(以下BCMと表記)の元となる事業継続マネジメント(以下BCMと表記)の基本方針を策定します。生命にかかる事は当然ながら最優先として、地域貢献、共生についても産助の考え方から優先して考慮すべきでしょう。

当社の場合は、企業理念を、
i. 社会と共生する企業。
ii. 働きがいある企業。
iii. お取引様から信頼される企業。

としており、利害関係者の中には

社会インフラに強く結びついている公益企業様が多いため、
i. お取引様から信頼される企業。

「従業員の生活を優先し、インフラ復旧に向けた製品、サービスの供給責任を果たす」
という基本方針となりました。



(2) 実施体制の構築

方針が決定したら、実施体制の構築が必要となります。BCMの検討や、具体的なBCPの策定を行う責任者、及び事務局メンバーを決めましょう。

大企業であれば専門の部署を設けるか総務系の部門に責任者を置けば良いのですが、経営者が実施体制の総括的責任及び説明責任を負わなければならぬので、人員の限定された当社では社長が責任者で、事務局メンバーは役員がこれにあたる事としました。

もちろん、限られた人員でも専任者を立ててBCP策定までを行い、策定以降に専任を解く方法もありかと思いま

す。(事業が停止しても耐えられる期間を決めて、それを超えてはいけません)BCP策定のメンバーが決まつたら、緊急事態発生時に自社がどのような被害を受けるのか?自社内の施設や設備、取引先(サプライチェーン)をも含めて分析する必要があります。事業中斷による影響度や、どの順番でいつまでに復旧を行うのかを決めていきます。(事業が停止しても耐えられる期間の想定)

事業中斷による影響度は次の項目により評価します。例を挙げましたので参考して下さい。

(3) 分析・検討

BCP策定のメンバーが決まつた後で、まず考えられるのは、影響度が高くなる順番に⑤、⑥、②、①、③、④、であることが推測されました。事業に及ぼすリスクを考慮して、これを順位付けされたリスクについて、発生事象によって自社の重要業務にどう影響するか、また現状(対策を講じる前の状態)でその影響の解消に要する時間と復旧の度合を検討する。

このうち影響度が高いものは、影響が高い順番に⑤、⑥、②、①、③、④、であることが推測されました。事業に及ぼすリスクを考慮して、これを順位付けされたリスクについて、発生事象によって自社の重要業務にどう影響するか、また現状(対策を講じる前の状態)でその影響の解消に要する時間と復旧の度合を検討する。

（例）月に一度購入されるような消費財であれば、1ヶ月を超えると他社製品にとつて代られてしまう。

（例）長期借入金があるので、仕入先への支払いと給与支払いについて2ヶ月までは維持できるが、これを超過すると支払遅延、給与未払いが発生する。

（例）顧客へ2ヶ月分の半製品を納入しているが、これを超過すると他社製品が導入されてしまう。

（例）売上がなく通常通りの給与が支払えない。仕事がなくなり従業員を雇用できなくなる。

（例）1週間以上の供給遅延が出てしまい、契約上の賠償責任が発生する。

（例）資金については中長期借入枠や緊急時借入枠を設定しているため3ヶ月以内の運転資金はなんとかなりそうですが。

（例）ボトルネックによる賠償責任

（例）1週間以上の供給遅延が出てしまい、契約上の賠償責任が発生する。

（例）顧客のBCP及び顧客との取引維持

（例）顧客へ2ヶ月分の半製品を納入しているが、これを超過すると他社製品が導入されてしまう。

（例）長期借入金があるので、仕入先への支払いと給与支払いについて2ヶ月までは維持できるが、これを超過すると支払遅延、給与未払いが発生する。

（例）長期借入金があるので、仕入先への支払いと給与支払いについて2ヶ月